

編集後記

リハビリテーション医学会をはじめ、関連諸学会の春の部がほぼ終わって、新しい年度のスタートがきられ、新鮮な気分の溢れる思いのする季節である。

今月の特集は脳卒中をおとどける。片麻痺のリハの特集がとりあげられたのは本誌の創刊号および第2号であり、それから既に3年半の歳月が過ぎ去った。その後、老人のリハ、ファシリテーション・テクニック、失行症・失認症の特集その他で、脳卒中関係の事項は折にふれてとりあげられてきたが、今回は今まで本誌ではとりあげられなかったトピックスが揃えられた。最近数年間に脳卒中の治療の中に重要な地位を占めるようになったものに脳外科の治療があるが、今回は内科側から山之内氏、外科側から坂本氏がこれについて執筆され、併せ読むときわめて興味深い。大腿骨頸部骨折は片麻痺のリハの上での大きな問題の1つであるが、古谷氏はその豊富な経験から治療法の選択について有益な知見を述べられた。片麻痺の回復過程について

重野氏は、回復状況の解析とさらに機能回復のメカニズムについての最新の知見の紹介をされた。脳卒中のリハ医療必要患者数の推定と対策は東京都衛生局から調査を委託されたものの紹介であり、その責任者であった私が書かせていただいた。三島氏、尾賀氏、松井氏の小論文はいずれも興味深く拝見した。

江口氏の巻頭言はCPを長年とり扱ってこられた経験から、リハ医療従事者は常に社会に眼を向け、社会とのつながりにおいて自らの仕事を反省しつつ前進すべきことを説かれているが、共感を禁じえない。本間氏の運動の制御に関する講座は今回は伸張反射による運動の制御で、痙性の理解の基礎ともなる知識をわかりやすく説明されている。一頁講座で穂坂氏は職業訓練において脳血管障害者およびその他の脳障害者の職域の開拓と開発、およびこれに対応した訓練職種の開発が急務であると述べておられるが全く同感であり、一日も早くその実現を望みたい。

(横山 巖)

次号予告(第4巻第7号)

特集 リハビリテーションにおける地域活動

リハビリテーションにおける地域活動

(その考え方).....宮城県拓杏園 今 田 拓

保健婦活動と地域でのリハビリテーション

サービス.....洞爺協会病院 三 島 博 信・他

心身障害者福祉センターと障害者(児)

通所サービス.....東京女子医大 山 形 恵 子

国鉄職員切断者の総合的 Follow-up.....鉄道中央病院 佐 藤 和 男

地域リハビリテーションにおける大学病院の

役割(横浜市大病院リハ科の現況から).....横浜市大 大 川 嗣 雄・他

リハビリテーション地域活動における横割連携

(兵庫県リハ協議会の活動から).....兵庫リハセンター 沢 村 誠 志

離島におけるリハビリテーション活動

(老人福祉のための理学療法).....島原温泉病院 高 木 輝 彦

地域医療におけるリハビリテーションチーム

の協力(青森県における試みについて).....青森県 花 田 ミ キ

北海道マザーズホームについて.....札幌療育センター 高 橋 武

身体障害者医療福祉総合展.....田中整形外科 田 中 稔 正

編集顧問

天 児 民 和

大 島 良 雄

小 池 文 英

砂 原 茂 一

津 山 直 一

水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙

上 田 敏

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

荻 島 秀 男

土 屋 弘 吉

横 山 巖

編集同人

赤 津 隆

今 田 拓

今 村 哲 夫

江口 寿栄夫

小 野 啓 郎

河 邨 文 一 郎

五 味 重 春

沢 村 誠 志

杉 山 尚

武 智 秀 夫

永 井 昌 夫

中 村 隆 一

野 島 元 雄

間 得 之

長谷川 恒雄

橋 倉 一 裕

平 方 義 信

福 井 関 彦

三 島 博 信

渡 辺 英 夫

飯 田 卯 之 吉

遠 藤 千 恵 子

小 川 孟

加 藤 一 郎

小 島 蓉 子

笹 沼 澄 子

鈴 木 明 子

高 田 玲 子

陳 慧 玉

土 屋 和 夫

松 村 秩

(以上五十音)

(順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)